

特定非営利活動法人 日本免疫学会  
平成 26 年後期 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award  
研究発表報告書

申請者氏名	小松紀子	会員番号	0026749
申請者の所属・職名	東京大学大学院 医学系研究科 免疫学 特任助教		
出席会議名	Keystone Symposia, Autoimmunity and Tolerance		
発表論文タイトル	Pathogenic Conversion of Foxp3 <sup>+</sup> T Cells into TH17 Cells in Autoimmune Arthritis		

実施結果:

この度は Kishimoto Tadamitsu International Travel Award に選出して頂き、誠に有り難うございます。岸本忠三先生をはじめとする選考委員の先生方、そしてご推薦下さった松島綱治先生に心より御礼申し上げます。

今回、私は 2015 年 2 月 3 日から 7 日かけて米国 Keystone で開催された Keystone Symposia Autoimmune and Tolerance に参加してまいりました。関節リウマチや多発性硬化症をはじめとするさまざまな自己免疫疾患が取り上げられ発症機序と治療をテーマに第一線で活躍する基礎や臨床の研究者が一堂に会し、最新の研究成果をもとに活発な議論が行われました。

私は Breakthrough Innovations in Understanding Pathogenesis of Disease というワークショップにて、関節リウマチにおける T 細胞の分化可塑性の病態形成への寄与についての研究成果を口頭発表させて頂きました。かつて参加した Keystone Symposia で得た着想をひとつの形として同じ地で発表する機会に恵まれたことに感謝するとともに、ヒト免疫へつなげることの重要性を改めて実感し、新たなモチベーションを得ることができました。発表後、関節リウマチを含めさまざまな研究背景をもつ参加者とディスカッションできたことは研究を広く深く考えるきっかけとなりました。

本学会では基礎の研究成果をいかに臨床へ繋がるかということや臨床データを基礎研究でどう説明できるかということを中心に基礎と臨床の双方向から討論が活発に行われ、また、色々な切り口からのアプローチが取り扱われており、自己免疫疾患を多角的に捉えることができ大変勉強になりました。さらに、国内外で活躍する同世代の基礎研究者や製薬企業の研究者の方々と知り合い意見交換することで、多種多様な研究スタイルを知るとともに自分自身の将来設計を考える上でも大変有意義な機会となりました。

Kishimoto Tadamitsu International Travel Award のご支援により参加させて頂いた本学会で得られた貴重な経験を糧に、今後の研究の発展に向け一層精進してまいりたいと存じます。